



(題字 小黒千足 学長)

第349号
(平成6年1月号)



▲ 平成6年度大学入試センター試験（快晴に恵まれた富山大学試験初日）
1月15日(土)の構内と試験開始前の受験者たち

目 次

年 頭 所 感

(学長 小 黒 千 足) 3

学 内 諸 報

◆ 低温液化室主催の第2回講演会開催 4

◆ 公務員採用試験に関する講演会の開催 5

◆ 「教育の情報化とリテラシー」について
の講演会 5

◆ 新成人職員に学長から記念品贈呈 6

◆ 海外渡航者 7

学 事

◆ 平成6年度大学入試センター試験の実施 7

◆ 平成6年度富山大学学生募集要項（募集
人員）の変更について（案） 9

◆ 外国人研究者 10

◆ 外国人来訪者 10

◆ 国際交流事業基金による各種事業の募集
について 11

人 事 異 動 13

学内トピックス

◆ 第25回富山大学寒中水泳大会 14

関 係 法 令 15

お 知 ら せ

◆ 他大学の自己点検評価報告書の供覧につ
いて 15

職 員 消 息 16

計 報 17

諸 会 議 18

主 要 行 事 19





年頭のあいさつ

富山大学長 小黒千足

新年明けましておめでとうございます。

いま新しい年、1994年を迎えました。

振り返ってみますと、昨年の今頃は、富山大学の教育改革の準備中で、多くの教職員から時間と知恵を出していただき、実施に向け努力している最中でありました。しかしながら一方では、未知の進路に対する不安もありました。さらに、新しい制度の自己点検・評価の体制作りと実務の進行も明け暮れておりました。

現在は、教育改革の第一年目の半ばを過ぎ、最初の山を越えることができました。これも全学教職員の理解と努力のたまものと感謝しております。一方、次の山が無い訳ではありません。むしろ次には、より高い山が待ち受けているようにも思えます。しかしながら、これらもまた、皆様の努力によって越えられるものと信じております。

一方、教育改革に伴う施設、設備の充実は焦眉の急で、事務局共々その解決に更に努力したいと考えております。定員が絡む人的問題は簡単には解決できませんが、より合理的な方法と、全学の理解及び努力で改善の方向が取られることを希望いたします。

自己点検・評価につきましては、体制と実務の完備が進み、実質的に富山大学の将来に資する方向が取られつつあります。もはや「知らしむべからず、行うのみ」の時代でないことを理解いただきたいと思います。このことは学生の教育についても同様で、より充実した計画とその周知の方法が必要であります。

また、昨年の年頭にも触れましたが、社会人の再教育、いわゆるリカレント教育の必要性はますます高まっております。本年は具体的にその方法と組織を考える時に至ったと思われまます。皆様の賢策を頂ければ幸いです。

望まれることは多く、我々にはあまりにも多くの制約があります。しかしながら、ここで挫折しては、すべての努力と実績は泡沫に帰することになりましょう。ある賢人が述べたように、「多くの過去を引きずりながらも、常に未来を志向したい」と思っております。

学 内 諸 報

平成5年度

低温液化室主催の第2回講演会開催

去る1月13日(休)理学部2号館4番教室において、岩手大学工学部 能登宏七教授を講師に、本学学生、教職員を対象として低温液化室主催の第2回講演会が開催されました。

当日は約50名の学生、教職員が「酸化物高温超電導材料の熱的特性とその応用」の講演をメモを取りながら聴講しました。

講演の概要は次のとおりです。

→→ →→ →→ →→ →→ →→ →→

最も新しい水銀系の高温超電導酸化物では、絶対温度130度という高い超電導転移温度を持つので、液体窒素温度(77度K)で安定な超電導特性が得られることになります。大きな電流を流すとどうしても超電導特性は熱

的に不安定化しますが、この材料を銅の中に埋め込んで、その熱特性を安定化される技術が進んでいます。磁場の超高感度センサー、高速コンピューター素子、弱電工学の素子として、高温超電導酸化物はすでに具体的な応用の域に達していますが、強電工学の素子としては、まだまだ一つ足りないところがあります。これを乗り越えることができれば、発電、電力輸送及び電力貯蔵の面で大革新されることになります。

超電導浮上列車に関連して、山の上まで軌道を設け、浮上列車と同じ原理で宇宙衛星を打ち上げれば、コストが大幅に安くなります。現在の宇宙衛星の巨大さは、上空でスピードを稼ぐための燃料を上空に運ぶために、いわば着膨れているのであり、燃料タンクを切り離せば、本体は小さいものなのです。



▲ 理学部2号館4番教室で講演を興味深く聴く学生、教職員

来年度就職する学生に

公務員採用試験に関する講演会を開催

各学部でも、来春卒業予定の学生を対象に就職説明会等が開催されていますが、このたび、全学的な行事として「公務員採用試験に関する講演会」が開催されました。

講演会は、去る1月26日(木)13時から経済学部講義棟401番教室において開催されましたが、昨今の経済事情の影響により、企業への就職環境が大変厳しいものになっていることもあって、述べ320名もの学生が出席しました。

講演に先立ち学生部長から、公務員採用試験を受けるに当たっては、幅広い知識が必要であり、準備と心得等をこの講演を通じて身につけてほしい旨挨拶があったのち、人事院中部事務局第二課試験係長 小林輝久氏から、景気低迷の折りの企業における雇用環境と公務員の魅力及び最近の国家公務員採用I種・II種試験の受験概要等について講演があり、次いで富山県人事委員会任用課課長代理 霜上 寛氏から、富山県職員採用試験の概要と、国家公務員採用試験と地方公務員採用試験との相違点等

について講演がありました。それぞれの講演の後、学生からは予定時間を超える活発な質問が行われていました。



▲ 経済学部401番教室「公務員採用試験に関する講演会」

平成5年度情報処理センター主催

「教育の情報化とリテラシー」についての講演会

去る1月27日(木)情報処理センター会議室において、株式会社福武書店教育研究所主幹研究員 五藤博義氏を講師に迎え「教育の情報化とリテラシー」をテーマに定期講演会を開催しました。

この講演会に、本学学生、教職員及び富山県情報処理センター等から約40人が参加し、情報化時代におけるコンピューターの最新の状況等を紹介され熱心に聴講していました。講演の概要は次のとおりです。

◎ 「道具としてコンピューター」を使う

「ツール・ソフトウェアの教育への有効性、すなわちワープロ、表計算、データベース、グラフ作成、グラフィック及び通信のソフトウェアを道具として使い、教育の情報化を進めることの利点と機能要件について

◎ 「ネットワーク」を活用

「PC通信のできる「自室が世界最大の図書館（山根一眞氏）」と米国の電子図書館を例にとり、

◎ 「情報スーパー・ハイウェイ」

(マルチメディア化の進むビデオ・オン・デマンド)

◎ その他

完全個別対応の教材配布、輸送手段としてのネットワークの活用、サーバー型ナロウキャスト・ビジネスについて話されました。



▲ OHPを用いてコンピューターを使いこなす能力を説明する五藤主幹研究員

祝・成人式



新成人職員に学長から記念品贈呈



— 決意も新たに成人の門出!! —

平成6年1月11日(火)10時30分から学長室において成人になったことを祝い、小黒学長から新成人職員2名にお祝いの言葉と記念品の贈呈が行われました。

なお、新成人職員から成人になったことに対するコメントをいただきましたので、併せて紹介いたします。



▲ 成人となった2名の職員



▲ 小黒学長から記念品贈呈

寺島 裕一（教育学部庶務係）

成人式を迎え、皆様にお祝いしていただき本当に感謝しております。ところが当の本人は、成人に達したことをあまり実感していないのが実状です。

しかし、今回の成人式を一つの区切りとし、社会人として、富山大学職員として両方の立場から、未来に向かって邁進していきたいと思えます。

これからもどうぞよろしく願いいたします。

高橋 志保（工学部生産システム工学教室）

この成人の日を機会に自分を知り高めるとともに、世の中の様々な物事に興味関心を持ち、勉強をし、自分にできる事からどんどん社会に貢献していきたいです。また、いつも前向きで柔軟な考え方を持ちながら楽しく生きていくことにも心懸けたいと思えます。

以上の事ができる女性になりたいと改めて目標にしました。まだまだ未熟な私ですが、これらを一日も早く実現できるよう頑張りたいと思えます。

海 外 渡 航 者

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
外 国 出 張	人文学部	助教授	本郷 真紹	中 国	「渤海文化と古代の日本について」調査研究（遼寧大学派遣）	5. 9. 17 ） 5. 11. 2
	”	教 授	神徳 昭甫	アメリカ合衆国	ニューイングランドの伝説・民話研究	5. 9. 20 ） 5. 10. 9
	”	助教授	岩井 瑞枝	フ ラ ン ス	第2次フォンテーヌブロー派（1589～1617）の美術作品閲覧及び資料調査	5. 12. 4 ） 5. 12. 18
	経済学部	教 授	水谷内徹也	大 韓 民 国	環日本海経済交流に関する調査	5. 12. 24 ） 5. 12. 29
海 外 研 修	教育学部	教 授	山地 啓司	アメリカ合衆国	ホノルルマラソンにおける成績（記録）と疲労度の研究，研究打合せ	5. 12. 11 ） 5. 12. 16
	教育学部 附属小学校	教 諭	老月 敏彦	”	”	”
	人文学部	教 授	藤本 幸夫	大 韓 民 国	国語学会にて講演，資料調査	5. 12. 12 ） 5. 12. 22

学

事

受験シーズンの幕開け

○ 平成6年度大学入試センター試験の実施 ○

— 県内では、本学をはじめ4会場で実施 —

共通一次学力試験に代わって、5回目の大学入学者選抜大学入試センター試験が去る1月15日(土)・16日(日)の両日全国一斉に行われました。全国の志願者は、531,177人で共通一次学力試験以来最も多い志願者数となりました。

富山県内では、18歳人口の減少により昨年より239人少ない6,174人の志願者が、本学をはじめ富山医科薬科大学、県立大学及び高岡法科大学4会場で受験しました。このうち本学では、4,524人の志願者が各学部の5試験場に別れて受験しました。

今年は、例年になく好天に恵まれ、2日間にわたり8教科の試験が支障なく予定どおり実施されました。本学試験場受験状況は、次のとおりです。



平成6年度大学入試センター試験富山大学試験場受験状況

期 日	試験教科	志願者数	受験者数	受験率	
1月15日(土)	外国語	4,524人 (4,963)	4,331人 (4,829)	95.73% (97.30)	
	数学(A)	4,524 (4,963)	3,928 (4,524)	86.83 (91.15)	
	数学(B)	4,524 (4,963)	3,763 (4,381)	83.18 (88.27)	
	理科(A)	4,524 (4,963)	1,742 (1,962)	38.51 (39.53)	
1月16日(日)	理科(B)	4,524 (4,963)	1,862 (2,167)	41.16 (43.66)	
	国語	4,524 (4,963)	4,251 (4,761)	93.97 (95.93)	
	社会	4,524 (4,963)	3,929 (4,498)	86.85 (90.63)	
	理科(C)	4,524 (4,963)	1,542 (1,772)	34.08 (35.70)	
1教科・科目平均		4,524 (4,963)	3,169 (3,612)	70.05 (72.77)	

(注) ()内の数字は、平成5年度実績を示す。



▲ 試験終了、肩の荷をおろして帰路につく受験生
(1月16日(日))

平成6年度富山大学学生募集要項(募集人員)の変更について(案)

本学における平成6年度の学生募集については、既に発表した学生募集要項のとおりですが、経済学部「昼間主コース」の募集人員については、平成6年度政府予算案の決定により下記のとおり変更になります。

記

1 募集人員

経済学部「昼間主コース」の募集人員「385名」を「375名」に変更します。

変更後における前期日程、後期日程別の募集人員は、次のとおりです。

学 科	変更前の募集人員		変更後の募集人員		一般選抜に含まれる 特別選抜の募集人員
	前期日程	後期日程	前期日程	後期日程	
経済学科	126	33	124	31	「前期日程」 推薦入学 (30人) 帰国子女特別選抜 (若干名)
経営学科	98	26	96	24	
経営法学科	81	21	80	20	
計	305	80	300	75	

2 入学者選抜方法

変更後の募集人員についての入学者選抜方法は、既に募集要項で発表したとおり行います。

平成6年1月

富 山 大 学



外 国 人 研 究 者

氏名 (国籍)	本国における 所属機関・職名	来学目的	本学受入れ先	期 間
陸 君 (中国)	江南大学 講 師	研 究	人文学部 教授 福田立明	5. 5. 20) 6. 3. 31
キャサリン・ダケット (アメリカ合衆国)	コーネル大学 大学院院生	研 究 (日本学術振興会・ 外国人特別研究員)	理学部 教授 鈴木邦雄	5. 6. 29) 6. 1. 3
李 漢 昌 (大韓民国)	全北大学校 副 教授	研 究	人文学部 教授 藤本幸夫	5. 7. 19) 6. 7. 14
向 上 (中国)	哈尔滨工業大学 講 師	研 究	工学部 教授 時澤 貢	5. 9. 1) 6. 8. 31
王 維 坤 (中国)	西北大学 副 教授	研 究	人文学部 教授 氣賀澤保規	5. 10. 1) 6. 9. 30
武 夙 林 (中国)	瀋陽国際経済技術協 力諮問会社 工 程 師	研 究 (中国政府派遣研究員)	経済学部 教授 小島 満	5. 10. 20) 6. 9. 30
張 秀 梅 (中国)	中国科学院海洋研究所 中級研究員	研 究	工学部 助教授 袋谷賢吉	5. 10. 20) 6. 1. 28
文 晨 (中国)	内蒙古紡績科学研究所 副 所 長	共 同 研 究	教育学部 教授 松川三郎	6. 1. 15) 7. 1. 14
アジャイ・スリバスタフ (インド)	ゴラクプール大学 講 師	共 同 研 究 (日本学術振興会・ 研究者交流事業)	理学部 教授 笹山雄一	6. 1. 15) 6. 7. 15

外 国 人 来 訪 者

氏名 (国籍)	本国における 所属機関・職名	来学目的	本学受入れ先	期 間
キャレン・フェダーホルト (アイルランド共和国)	駿台外語専門学校 教 師	研究打合せ	人文学部 教授 奥田平八郎	6. 1. 5
姪 茄 (中国)	内蒙古作家協会々長 中国作家協会理事	表 敬	教育学部 講 師 結城善之	6. 1. 6
王 德 恒 (中国)	南京海軍大学教授 経済開発会社顧問	”	”	”

平成6年度

国際交流事業基金による各種事業の募集について

◎ 富山大学国際交流事業基金各種事業の募集要項

平成6年度に実施する富山大学国際交流事業基金の各種事業が次のとおり決定しましたので、応募されるようお知らせします。

第1種海外派遣事業（A）

遼寧大学への派遣

- 1 派遣対象者及び予定者数
本学教官 1人
- 2 派遣期間 3ヶ月以内
- 3 出発の時期 平成6年4月1日から平成7年3月31日までの間、遼寧大学が受入れ可能な時期
- 4 支給経費
 - (1) 国内旅費
本学から国際空港までの間の往復運賃（鉄道賃、日当及び宿泊料）
 - (2) 航空賃
国際空港を起点とした往復航空賃（エコノミークラス以下のできるだけ低廉となる運賃を利用するものとする。）
- 5 提出期限 平成6年2月25日(金)

第1種海外派遣事業（B）

- 1 派遣対象者及び予定者数
本学の教職員 3人
- 2 派遣期間 2週間以内
- 3 出発の時期 平成6年4月1日から平成7年3月31日までの間
- 4 支給経費
支給額は、30万円を限度
 - (1) 国内旅費
本学から国際空港までの間の往復運賃（鉄道賃、日当及び宿泊料）
 - (2) 航空賃
国際空港を起点とした往復航空賃（エコノミークラス以下のできるだけ低廉となる運賃を利用するものとする。）
 - (3) 滞在費
文部省在外研究員規程である定める日当、宿泊料支度料は支給しない。
- 5 提出期限 平成6年2月25日(金)

第2種外国人研究者の招へい事業（A）

- 1 招へい対象者及び予定者数
遼寧大学の研究者 1人
- 2 招へい期間 3ヶ月以内
- 3 招へいの時期 平成6年4月1日から平成7年3月31日までの間、本学に受入れ可能な時期
- 4 支給経費
 - (1) 国内旅費
本邦の出入港を起点とした本学までの間の往復旅費（鉄道賃、日当及び宿泊料）
 - (2) 滞在費
滞在費は、1日@5,000円を本学到着の日から本学出発日の前日までの日数に応じて支給
 - (3) 国内視察旅行等の旅費
支給総額は、5万円を限度
- 5 提出期限 平成6年2月25日(金)

第2種外国人研究者の招へい事業（B）

- 1 招へい対象者及び予定者数
 - (1) 招へい対象者
イ 我が国との間に国交関係のある国の国籍を有する者
ロ 日本国籍を有する者で、外国におおむね10年以上在住し、現にその国の学界で活躍している者
 - (2) 予定者数 若干人
- 2 招へい期間 5日間以内
- 3 招へい時期 平成6年4月1日から平成7年3月31日までの間
- 4 支給経費
 - (1) 旅費
日本国内の滞在地から本学までの間の往復旅費（鉄道賃、車賃、船賃、航空賃）
 - (2) 滞在費
滞在費は、1日@16,900円
ただし、本学宿泊施設を利用する場合
1日@11,200円
- 5 提出期限 前期(4月～9月)平成6年2月25日(金)
後期(10月～3月)平成6年8月31日(火)

第3種外国留学への奨学事業

- 1 応募資格
 - (1) 本学に在籍する学生（研究生、聴講生等を除く。）
 - (2) 学業成績が優秀
 - (3) 留学期間 3ヶ月以上
- 2 支給学資金額

学資金	10万円を限度
-----	---------
- 3 募集人員 若干人
- 4 提出期限 平成6年5月13日(金)

第3種外国人留学生への奨学事業

- 1 応募資格

本学に在籍する自費外国人留学生

 - (1) 学資の支弁が困難
 - (2) 学業成績が優秀
 - (3) 民間団体等から奨学金の支給を受けていない者
- 2 支給学資金額

学資金	月額1万円
-----	-------
- 3 支給期間

平成6年4月1日から平成7年3月31日までの1年間

- 4 募集人員 12人以内
- 5 提出期限 平成6年5月13日(金)

(庶務部庶務課)

国際交流事業基金の充実に協力を

富山大学国際交流事業基金事業は、昭和61年7月に本学の国際交流を支援する目的で組織された富山大学国際交流事業後援会が、昭和61年9月から2年間にわたる募金活動を行い寄附された約1億1千万円の事業基金の果実により実施されています。

この国際交流事業後援会は、昭和63年9月に解散いたしました。本事業基金は、その後も引き続き寄附の受入れを行っています。

最近の金利の大幅な低下に伴い、現在有している事業基金ではこれまでの事業規模を今後とも確保していくことは極めて困難な情勢となっています。

つきましては、本事業基金を充実し、国際交流事業を維持していくため、教職員各位の御協力をお願いいたします。御寄附くださる方は、所属部局の庶務係（総務係）又は庶務課に御連絡ください。

この一年間に国際交流事業基金に寄附された方々

平成5年1月1日から平成5年12月31日までに本学国際交流事業基金に10人の方々から合計17万5千円の寄附がありました。ここに御寄附いただいた方々を紹介します。

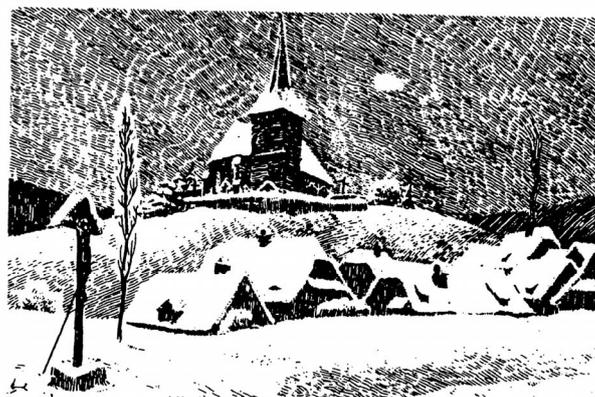
国際交流事業基金への寄附者（敬称略）

学 長	小 黒 千 足	工 学 部	堀 田 裕 弘
人文学部	本 郷 真 紹	"	島 田 邦 雄
"	神 徳 昭 甫	"	中 茂 樹
教育学部	藤 田 正 春	"	小 田 晃 規
工学部	田 島 正 登		岩 井 喬

(庶務部庶務課)

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容
採 用	6. 1. 4	山田 智恵		事務補佐員（附属図書館）
	6. 1. 10	林 敏和		事務補佐員（附属図書館）
	〃	中村 繁之		〃（ 〃 ）
	〃	高越 義一		〃（ 〃 ）
	〃	杉森真希子		〃（ 〃 ）
	〃	松岡 弘二		〃（ 〃 ）
転 任	6. 2. 1	吉田 尚弘	助教授（理学部）	助教授 （名古屋大学大気水圏科学研究所総合解析部門）
臨時的任用	6. 1. 9	椎名由里子		教 諭（教育学部附属中学校） （～6. 3. 31）
臨時的任用の更新	6. 1. 5	椎名由里子	教 授（教育学部附属中学校）	臨時的任用を更新する（～6. 1. 8）
併 任	6. 1. 16	山極 隆	主任視学官（文部省初等中等教育局）	教 授（教育学部附属教育実践研究指導センター） （～6. 3. 31）
休職更新	6. 1. 5	前田あけみ	助教授（教育学部）	休職の期間を平成6年5月21日まで更新する
退 職	6. 1. 9	椎名由里子	教 諭（教育学部附属中学校）	平成6年1月8日限り任期満了により退職した
辞 職	6. 1. 25	小井 利男	臨時用務員（学生課作業員）	辞職を承認する
死 亡	6. 1. 27	八木 寛	教 授（工学部）	死 亡（公務外）
育児休業	6. 1. 9	岩田万里子	教 諭（教育学部附属中学校）	育児休業を承認する（～6. 3. 31）



学内トピックス

第25回富山大学寒中水泳大会

— 厳寒の1月、学生の熱気の中、敢行される —

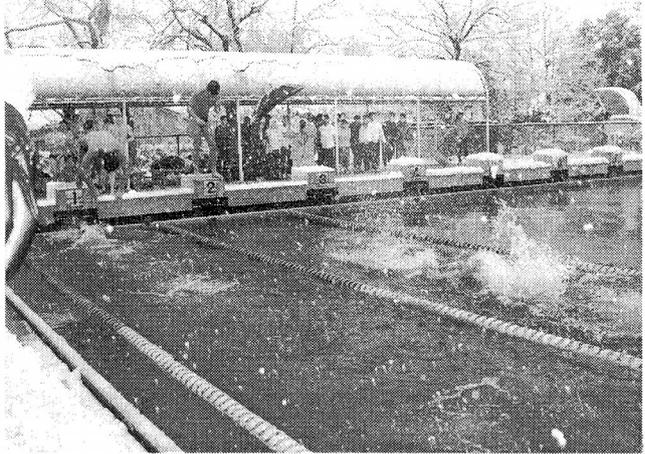
去る1月22日(土)前日から厳冬の吹雪、この日も激しい吹雪の中、富山大学水泳部活動の恒例の寒中水泳大会が多くの観衆の見守る中、本学第二体育館前プールで水泳部員等約100人が参加して開催されました。

この日は、始まる直前から激しく雪が降り出し寒中水泳大会にふさわしい絶好のコンディションで、学生、一般観衆及び本学教職員が見守る中で行われました。

この寒中水泳大会は、昭和45年から行われており回を重ねて今年で25回を迎え、その重い伝統を受け継ぎ水泳部員は懸命に泳いでいました。他部活動部員も思い思いの仮装姿で泳ぎ、さらに応援団のリーダー部、チアリーダー部及び吹奏楽部等も加わり、熱い声援を送り大会を盛り上げました。

なお、同大会は毎年、テレビ、新聞等でも報じられており、富山大学名物行事として、県内のみならず全国的にも知られるようになり、この日も多くの報道関係者の取材が行われました。

この寒中水泳について、水泳部員からコメントをいただきましたので紹介いたします。



▲ 厳寒の中を泳ぐ水泳部員

今日、毎年恒例の水泳部主催の寒中水泳大会が行われた。25回目を迎えた今年は、薄氷の張るプールに猛吹雪という好条件？が重なり、寒中水泳をするにはあまりにもふさわしい状況であった。学生部長のあいさつにもあったように、周囲から「本当に泳ぐのか。」という声があったほどの気温は氷点下1度、水温は0度の中で、水泳部員をはじめ、仮装した各サークル部員たちが、力強い泳ぎを見せた。そして、気合の入ったユニークなパフォーマンスによって寒さを吹き飛ばしていた。また、この悪天候にもかかわらず、多くの観客や報道関係、学生部の方々が来てくださり、周囲は大いに盛り上がりを見せ、文字通りの“寒中水泳”は無事幕を閉じた。



▲ 勇壮な応援団のリーダー部員



▲ 寒中水泳に花を添えたチアリーダー部員

関 係 法 令

（規 則）

- 人事院規則 9-43（休日給の支給される日）
の一部を改正する人事院規則（人事院 9-43-2） 1. 4
- 超過勤務手当の支給割合（同 9-97） 1. 4

（告 示）

- 大学の名称を変更する件（文部 5～7） 1. 14
- 国の物品等の調達手続の特例を定める
政令に規定する大蔵大臣の定める額を定め
る件（大蔵16） 1. 20
- 出納官吏事務規程第16条に規定する外国貨
幣換算率を定める等の件の一部を改正する
件（同18） 1. 25

お 知 ら せ

他大学の自己点検評価報告書の供覧について

本年1月31日現在、新たに本学に送付された他大学の自己点検評価報告書は、下記のとおりです。（掲載済みのものは除く。）ご利用の際は、各配置先にご連絡下さい。

大 学 名	報 告 書 名	発 行 年 月	学 内 配 置 先	
			図 書 館	企 画 室
高 知 大 学	未来にはばたく	平成5年3月	1	—
長 崎 大 学	大学教育の改善に向けて —長崎大学の現状と課題—	平成5年6月	1	—
高知大学教育学部	教育研究の現状と課題	平成5年5月	1	—
九 州 大 学	教育と研究 I	1993年3月	1	—
新潟大学教養部	教養部の教育と研究 —経緯と現状—	平成5年3月	1	—
富山医科薬科大学	大学改革への序章 —富山医科薬科大学の点検・評価1992—	1993年5月	1	—
神 戸 大 学	大学教育の現状と課題	1991年3月	1	—
岡 山 理 科 大 学	岡山理科大学教育研究白書	1993年7月	1	—
福 島 大 学	現状と課題	平成5年10月	1	—
神戸大学理学部	創造的教育・研究の場を目指して	平成5年10月	1	—
静岡大学教養部	自己評価報告	1993年4月	1	—
島 根 医 科 大 学	島根医科大学の現状と展望	1993年11月	1	—
"	" 附属図書館の現状と展望	"	1	—
筑 波 大 学	筑波大学年次報告書（平成4年度版）	平成5年11月	1	1
千 葉 大 学	現状と課題 —常により高きものへ—	平成5年9月	1	—

大 学 名	報 告 書 名	発 行 年 月	学 内 配 置 先	
			図 書 館	企 画 室
都 留 文 科 大 学	都留文科大学現状と課題	1993年度	1	—
宮 崎 医 科 大 学	宮崎医科大学年報	平成5年10月	1	—
神 戸 大 学	躍動する神戸大学 1993	1993年12月	1	—
三 重 大 学	三重大学その現状と課題	1993	1	—
弘 前 大 学	弘前大学の現状と課題	平成5年11月	1	—
島 根 大 学	島根大学の現状と課題(Ⅱ) —大学のめざすところ—	平成5年12月	1	—
長岡技術科学大学	教育と研究の現状 1993	1993年12月	1	—
琉 球 大 学	新しい琉球大学を目指して	平成5年10月	1	—

職 員 消 息

〈新任者住所〉

経済学部

講 師 秋 葉 悦 子
(基礎法)

講 師 渡 邊 知 行
(民事法)

人文学部

教 授 小 谷 仲 男
(歴史文化)

教 授 宇 野 隆 夫
(環境地域論)

教育学部附属養護学校

教 諭 野 崎 和 仁

〈住所変更〉

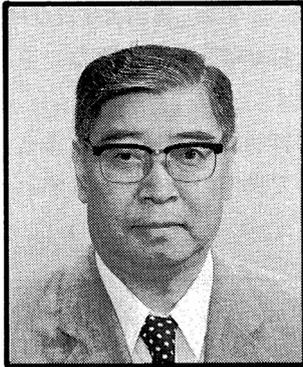
事務局

庶務部人事課

文部事務官 藏 川 一 正
(任用係)

訃 報

富山大学工学部教授 八木 寛氏逝去



本学工学部教授八木寛氏が、平成6年1月27日に逝去（享年57歳）されました。

同氏は、昭和34年3月富山大学工学部電気工学科を卒業後、同年4月東京工業大学助手理工学部に採用され、同35年3月同職を辞職して、同年4月東京工業大学大学院へ入学し、同40年3月同大学院博士課程を修了し、併せて工学博士の学位を取得されました。その後、同年4月富山大学助教授工学部に採用され、同54年4月教授に昇任されました。爾来、約30年の永きにわたり、本学の教育研究にそして学部・大学の運営に専念し、傍ら地域企業の発展及び技術者の資質向上に大きく貢献し続けてきたところ、平成5年7月体調の異変に気づき検査のため入院、結果は療養を必要とされ、その後退院されましたが、再び入院され、同6年1月27日関係者の懸命の努力や復帰の願いも空しく内臓疾患により逝去されたものです。

この間の同氏は、永年にわたり学生の教育に真向きな情熱を捧げ、優秀な人材を各界に送り続けられました。自由な討論を好み、深夜まで学生と談論風発する様子は、しばしばの事であり、自然体に徹し上に阿ることなく、さらばと云って不遜など微塵もない生き方が無言の教訓となって、同研究室では先輩が後輩の面倒を見る、後輩は先輩を敬うことが習慣となり、これが佳き伝統として代々引継がれております。

同氏の学部・大学の運営に関しては、平成5年10月電子情報工学科長を併任することとなりましたが、病

に倒れその職務を全う出来ないことに深く責任を感じておられました。

学内における同氏の業績は、平成2年12月学内共同利用施設である富山大学情報処理センター長に就任され、設備の充実も然ることながら、センターの設置意義について広く理解を求める努力を重ね、見事にこれを成し遂げ、IBM大型コンピュータの導入、情報処理教育方法の報告書のまとめ、授業科目化の実現、構内データ通信網の敷設、富山大学データベース及びプログラム取扱規則の制定など整備充実に多大の功績を挙げられました。さらに、学内共同教育研究施設として地域企業との共同研究実績、日本一と評価されている富山大学地域共同研究センターの隆盛の陰に同氏の絶大な支援、協力があつたことを忘れてはなりません。同氏は、昭和62年3月地域共同研究センター創設準備委員会委員として同年5月設置に至るまで献身的な努力を重ね、設置後も主催事業に対する協力、企業とのパイプ役そしてセンターの相談役的存在となって発展に寄与されました。その他、同氏は数多くの委員を歴任しているが、何れも誠実に勤め冷静沈着な判断から多くの人の信望を得、工学部の重鎮、富山大学の至宝的教授と称されておりました。

同氏の研究業績では、電気から神経系情報及び医用電子と広汎にわたり、著書は「医用電子計測」（産業図書、昭和59年）外5編であるが、中でも昭和49年に出版された「神経系情報工学」（電気書院）は、神経生理学と電子工学とに関連する新しい研究分野をとり上げ、その後の主体情報工学の発展に大きく貢献されました。学術論文は、「電界中における植物遊離細胞の配向と特異な回転（平成4年、電子情報通信学会論文誌）外30編、参考論文69編の多きを数えています。特に神経系の電気生理学の研究に顕著なものがあり、工学分野での生体工学研究の先駆者でもありました。一方、世の弱者すなわち障害を有する人達にも常日頃手を差し伸べられて「視覚障害用超音波杖」、「音声

の点字化」, 「無呼吸症の病態の固定」などを開発され, これらの業績によって平成元年3月に富山新聞文化賞を受賞されました。

また, 学会及び社会における活動も目ざましいものがあり, 電子情報通信学会, 電気学会, 日本ME学会, 日本生理学会, 日本動物生理学会の正会員又は正員として卓抜した功績を挙げられました。特に同氏は, 地域社会にも特別の思いを寄せていたことと, 同氏の学識と人格に基づき, 富山県, 富山市から数多くの委員会委員を委嘱され, 主たるものとして「富山県大気汚染対策研究会委員」, 「富山市総合計画審議会委員」などがあります。さらに, 財団法人富山技術開発財団研究開発委員会委員として大きな足跡を残されています。特に富山技術開発財団の振興に深く係わり, 地域の高度技術の開発, 技術者の養成に貢献し, 産・官・

学の連携の基盤を築いた功労者でもありました。また, これに関連する「若い研究者を育てる会」の会員であるとともに指導者として所期の目的を超える成果を挙げておられました。

かくのとおり多忙な毎日にも拘らず, 文才にも恵まれていたことから, 新聞・雑誌に100編以上の随筆を寄稿し, 一部は日本エッセイスト・クラブ「86年版ベストエッセイ集」(文芸春秋社発行)に掲載されています。

以上のとおり, 工学部, 富山大学及び地域社会にとって同氏を失った打撃は, 計り知れないものがあり痛恨の極みであります。

ここに同氏の御功績を偲び顕彰するとともに, 御冥福を祈り, 謹んで哀悼の意を表します。

諸

会

議

第8回学生生活協議会(12月3日)

(審議事項)

- (1) DMに関する学生5団体からの要求書について
- (2) その他

第86回構内交通対策委員会(12月6日)

(審議事項)

- (1) 構内交通対策の諸課題について
- (2) 冬期積雪時の特別対策について

平成5年度第3回低温液化室運営委員会(12月9日)

(議 題)

- (1) 委員長の選出について
- (2) 平成6年度一般設備費等の要求について
- (3) 平成6年度営繕関係経費の要求について
- (4) 低温液化室自己点検評価委員会委員の選出について
- (5) 富山大学低温センターについて
- (6) その他

平成5年度第4回施設整備委員会(12月9日)

(審議事項)

- (1) 平成5年度2次補正予算事業について
- (2) キャンパスプラン検討会の任期等について
- (3) その他

平成5年度第1回教務委員会(12月10日)

(審議事項)

- (1) 平成5年度以降入学者(新教育課程の学生)の転学部の取り扱いについて
- (2) その他

平成5年度第11回評議会(12月17日)

(審議事項)

- (1) 大学入試センター試験実施に伴う休講措置について
- (2) 富山大学附属図書館長候補者の選考について
- (3) 教官の休職について

平成5年度第7回大学院委員会(12月17日)

(審議事項)

- (1) 平成6年度富山大学大学院工学研究科(修士課程)第2次学生募集要項について
- (2) その他

平成5年度第2回自己点検評価委員会(12月17日)

(議 題)

- (1) 平成4年度自己点検評価報告書における問題点及び改善事業について
- (2) 平成5年度自己点検評価について

(3) その他

平成5年度第7回事務協議会(12月20日)

(議 題)

当面の諸課題について

平成5年度第2回公開講座委員会(12月22日)

(議 題)

- (1) 委員長の選出について
- (2) 平成6年度公開講座の実施計画について
- (3) その他

平成5年度第12回評議会(臨時)(12月22日)

(議 題)

- (1) 学生の懲戒について
- (2) その他

主 要 行 事

本 部

- 12月1日 平成6年度富山大学推薦入学, 帰国子女・社会人特別選抜試験
- 3日 第20回北陸地区国立学校施設担当者連絡協議会(於: 金沢大学)
第8回学生生活協議会
- 4日 体育会定例総会(於: 黒田講堂)
- 6日 第2回放射性同位元素総合実験室自己点検評価委員会
第7回教養教育委員会企画専門委員会
第86回構内交通対策委員会
- 7~8日 平成5年度厚生補導研究会(於: 宇奈月町黒部荘)
- 8日 消防査察(新樹寮)
健康診断(在来生合宿研修)
- 9日 第3回低温液化室運営委員会
第4回施設整備委員会
第3回キャンパスプラン検討会
推薦入学, 帰国子女・社会人特別選抜合格者発表
- 10日 営繕関係経費ヒアリング
第1回教務委員会
- 13日 一般設備費等ヒアリング
人文学部推薦入学願書受付
- 14日 部課長会議
富山地区国立学校等事務局長等会議
第1回学生部キャンパスプラン検討会

- 15日 第8回教養教育委員会企画専門委員会
在来生合宿研修オリエンテーション
- 16日 学務関係職員打合せ会
第8回教養教育委員会実施専門委員会
- 17日 第11回評議会
第7回大学院委員会
第2回自己点検評価委員会
平成6年度大学入試センター試験入試担当者連絡協議会(於: 昭和女子短大)
第6回部局長懇談会
- 20日 第7回事務協議会
第3回放射性同位元素総合実験室自己点検評価委員会
- 20日 第1回事務電算化委員会学務専門部会
- 21日 第5回国際交流委員会留学生部会
- 22日 第12回評議会(臨時)
第2回公開講座委員会
- 23~27日 富山大学公開講座「硬式テニス(初級者)コース」
- 28日 第2回事務電算化委員会学務専門部会
仕事納めの学長挨拶

人 文 学 部

- 12月1日 学部教育実習委員会(持ち回り)
平成6年度富山大学人文学部帰国子女・社会人特別選抜学力検査
平成5年度文部省会計実地監査
学部自己点検評価委員会
- 3日 学部職業補導委員会

- | | | |
|-------------------|-----|------------------|
| 学部将来計画委員会 | 8日 | 人事教授会 |
| 6日 係長会議 | | 教授会 |
| 8日 教授会 | 9日 | 係長会議 |
| 教授会(人事) | 15日 | 学部学生生活委員会 |
| 15日 学部情報処理委員会(仮称) | | コンピューター管理運営委員会 |
| 21日 学部教務委員会 | 20日 | 大学院経済学研究科委員会小委員会 |
| 学部将来計画委員会 | | 学部学生生活委員会 |
| 22日 学部自己点検評価委員会 | | 学部職業補導委員会 |
| 教授会 | 22日 | 学部教務委員会 |
| 教授会(人事) | | 人事教授会 |
| 人文科学研究科委員会 | | 大学院経済学研究科委員会 |
| 学部予算委員会 | | 教授会 |
| 24日 係長会議 | 24日 | 授業(第11週)終了 |

教育 学 部

- 12月6日 教育学研究科準備委員会
附属養護学校入学者選考
- 7日 係長連絡会
附属養護学校合格者発表
- 8日 学部教務・学生生活合同委員会
学部教務委員会
人事教授会
教授会
附属幼稚園入園者発育検査(3歳児)
- 9日 附属幼稚園入園者発育検査(4歳児)
- 13日 附属幼稚園入園者第2次選考(抽選)
- 14日 教育実習運営協議会
- 15日 就職ガイダンス
- 18日 附属幼稚園第2学期終業式
- 22日 学部予算委員会
人事教授会
附属小学校, 附属中学校及び附属養護学校第
2学期終業式
- 24日 大学院設置準備委員会
係長連絡会

経 済 学 部

- 12月1日 平成6年度推薦入学帰国子女及び社会人特別
選抜試験
- 3日 係長会議
- 6日 推薦入学等選考委員会
- 7日 学部教務委員会(持ち回り)

理 学 部

- 12月8日 教授会
理学研究科委員会
人事教授会
- 14日 学部教務委員会
- 15日 理学部業績集編集委員会
学科長会議
- 16日 学部職業補導委員会
- 17日 学部情報化対策検討委員会
- 22日 学部教務委員会

工 学 部

- 12月1日 平成6年度工学部推薦入学試験
- 6日 学部教務委員会
- 7日 学部運営委員会
- 8日 教授会
研究科委員会
専任教授会
- 13日 学部安全委員会
- 27日 係長連絡会
若手教官と学部長との懇談会

附 属 図 書 館

- 12月9日 係長連絡会
- 21日 係長連絡会
- 22日 時間外開館終了

水素同位体機能研究センター

12月16日 R・I 教育訓練

地域共同研究センター

12月2日 地域共同研究センター講演会
10日 第5回大学院生教育講座
17日 第2回技術セミナー
19日 第6回大学院生教育講座
24日 第7回経営者・研究者交流会
25日 企業見学と産学交流会（於：SMK^(株)富山事業所）



情 報

^{いぬ}
成年生まれは941万人

(平成6年1月1日現在)



総 務 庁

〔第1表〕成年生まれの人口 (平成6年1月1日現在)

生まれた年	年 齢 (歳)	男女計		男		女	
		(万人)	割合 (%)	(万人)	割合 (%)	(万人)	割合 (%)
総 数	—	941	100.0	458	100.0	483	100.0
昭和57年(1982)	12	151	16.0	77	16.8	74	15.3
昭和45年(1970)	24	192	20.4	98	21.4	94	19.5
昭和33年(1958)	36	159	16.9	80	17.5	79	16.4
昭和21年(1946)	48	160	17.0	80	17.5	79	16.4
昭和9年(1934)	60	150	15.9	73	15.9	77	15.9
大正11年(1922)	72	89	9.5	36	7.9	53	11.0
明治43年(1910)	84	38	4.0	14	3.1	25	5.2
明治31年(1898)	96	2	0.2	1	0.2	2	0.4

・誕生日を迎えた時の年齢

(注) 厚生省の全国高齢者名簿(平成5年9月1日現在)によると、成年生まれの最年長は、明治19年生まれ(108歳になる人)の27人の人たちである。

〔第2表〕十二支別人口とその順位 (平成6年1月1日現在)

十二支別	人 口 (万人)	総人口に占める割合	人 口 順 位
子 (ね)	1,061	8.5%	4
丑 (うし)	1,087	8.7	1
寅 (とら)	1,044	8.4	8
卯 (う)	1,025	8.2	9
辰 (たつ)	1,048	8.4	7
巳 (み)	1,055	8.5	5
午 (うま)	1,000	8.0	11
未 (ひつじ)	1,066	8.5	3
申 (さる)	1,073	8.6	2
酉 (とり)	1,021	8.2	10
戌 (いぬ)	941	7.5	12
亥 (い)	1,049	8.4	6

(注) 数値は万人単位に四捨五入してあるので、内訳の合計は必ずしも総数に一致しない。

編 集 富山大学庶務部庶務課
富山市五福3190
印刷所 あげぼの企画株式会社
富山市住吉町1丁目5-18
電話(24)1755(代)